

西東京市総合戦略（中間まとめ）（案）

I はじめに

<戦略策定の趣旨>

我が国における少子・高齢化社会の進展に的確に対応し、人口減少社会に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域が自らの地域資源を活用して、将来にわたって活力ある日本社会を創造することを目的とする「まち・ひと・しごと創生法」が平成 26 年 11 月に成立しました。また、同年 12 月には、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の施策の方向性を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、以下の 4 つの基本目標が示されました。

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる
- ④ 次代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

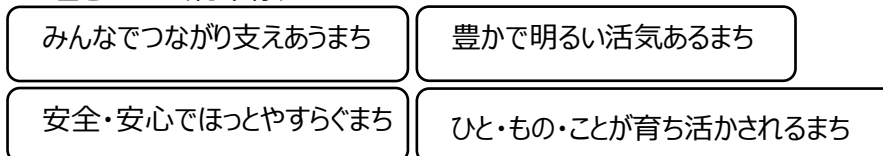
西東京市の人口推計は、平成 32 年（2020 年）をピークとしてゆるやかに減少し、平成 52 年（2040 年）には 18 万 8 千人に、平成 72 年（2060 年）には 16 万人にまで減少するとされています。また、人口構造は着実に変化していくことが明らかであり、平成 72 年（2060 年）には介護が必要となる可能性が高い 75 歳以上の人口（後期高齢者）は、平成 27 年（2015 年）現在と比べて、2 倍近くまで増加する予測となっています（※国立社会保障・人口問題研究所推計）。

人口減少や少子高齢化の進展は日本全体の課題であるとして、すべての都道府県及び市町村においても「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定が求められており、こうした、国の動きを契機として、西東京市においても「（仮称）西東京市人口ビジョン」及び「（仮称）西東京市総合戦略」を策定し、地域特性に応じたまちづくりを展開します。

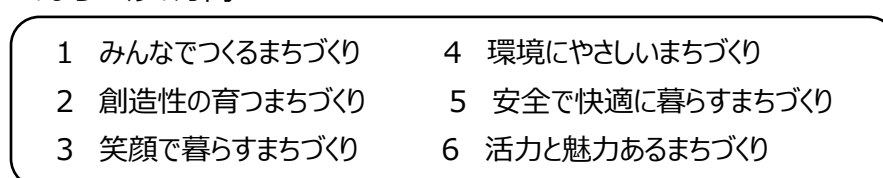
<戦略の位置づけ>

西東京市では、平成 26 年度から『西東京市第 2 次基本構想・基本計画』がスタートし、「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」を基本理念として掲げ、4 つの理想のまち〔将来像〕と 6 つのまちづくりの方向に沿ったまちづくりを進めています。

◇ 4 つの理想のまち〔将来像〕



◇ 6 つのまちづくりの方向



施策や事業の展開にあたっては、国の総合戦略における基本目標や東京都の動向も踏まえながら、西東京市第2次基本構想・基本計画における6つのまちづくりの方向を基本として、既存や新規の施策を組み合わせ、新たな付加価値を生み出すなど、より効果的な事業展開をめざします。

◇西東京市第2次総合計画と国の総合戦略の関係

国の総合戦略における 基本目標	西東京市第2次総合計画 まちづくりの方向
①地方における安定した雇用を創出する（雇用）	活力と魅力あるまちづくり
②地方への新しい人の流れをつくる（人の流れ）	
③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	創造性の育つまちづくり
④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する（地域づくり・くらし）	みんなでつくるまちづくり 笑顔で暮らすまちづくり 活力と魅力あるまちづくり

本市の最上位計画である第2次総合計画に定めたまちづくりの方向を、計画的かつ効果的に推進するための「戦略プラン（アクションプラン）」として位置付けます。

<計画期間>

総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

II データから見た本市の特徴と課題認識

戦略策定にあたり、総務省の国勢調査及び市が実施した市民意識調査の結果、また、各種統計資料などを用いて住宅都市としての類似の性質をもつ多摩北部都市広域行政圏を構成する北多摩5市（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）及び都内において23区と隣接する5市（西東京市・武蔵野市・三鷹市・調布市・狛江市）などとの比較により、西東京市の主な特徴と課題について、以下にまとめました。

1. 特徴

■ 人口規模

人口規模は北多摩5市の中で最も大きく、人口構成もバランスが取れ、将来の人口減少率も比較的緩やかに推移すると予測されるなど、多世代が集住する都市として人口面での優位性を有しています。

■ アクセスの良さ

本市は15.75平方キロメートルであり、面積は小さいながらも鉄道が2路線5駅あり、市域の約8割の地域では駅まで15分圏内となっています。また、市域内をはじめとして都心や近隣市へのアクセスに恵まれており、「行動や活動がしやすいまち」としてのポテンシャルを有しています。

■ 多面的な都市の姿

都心に近い住宅都市の性格を有するとともに、北多摩5市の中ではもっとも産業集積があり、教育・学習環境も23区近隣市と同水準（特に学校数・児童生徒数、図書館蔵書数、社会教育事業数）にあります。

■ 多彩な市民活動や地域活動

多摩26市のなかでも昼夜間人口比率が4番目に低く、働いている市民の約半数は都内へ通勤し、第3次産業へ従事している割合が23区と同程度と高いなど、都心等に集中する職場への就労者が多くなっています。また、前述の整った教育・学習環境により、多彩な市民活動や地域活動が行われており、NPO数も北多摩5市の中ではトップ水準であり、23区近隣市にも引けをとりません。

■ 地域資源が豊富

本市には世界最多の星が投影できるプラネタリウムで有名な「多摩六都科学館」や、南関東最大級の縄文時代の大集落「国史跡 下野谷遺跡」、東京大学生態調和農学機構などの耕地・緑地・林地からなる研究フィールド、農地や屋敷林といった比較的多く残された安らげる環境等、魅力ある資源が存在します。また、さまざまな分野で全国的な活動をする団体も存在するなど、見のがされているヒト・モノ・コトが点在するまちです。

2. 人口減少時代における本市の課題 ※〔 〕は関連データ No.

➤ 人口は緩やかに増加しつつも、減少に転じる予測

人口減少時代にあつて、現在の西東京市の人口は緩やかに増加し続けているが、今後の将来人口は2020年をピークに減少に転じる予測となっている。本市においても人口減少時代を迎えるにあたり、中長期的視野に立ち、その影響を踏まえた対策が必要となる。

➤ 若い世代の結婚・出産・子育てにおけるギャップと転出超過

（出生率）北多摩5市の中では小平市、清瀬市、東久留米市の合計特殊出生率がかつ数年上昇傾向にある中で、本市は、着実な上昇傾向は見られない状態にある〔1〕。要因としては結婚・出産について、本市の20代後半から30代前半の女性の未婚率は全国水準よりも高く〔2〕、子ども2人以上世帯の割合も北多摩5市の中で最も低いことがあげられる。一方で、市民の18～39歳女性の結婚への意向〔3〕や希望出生率〔4〕は、全国値と比べて高い傾向にあり、人口減少に歯止めをかけるためには、若い世代の結婚・出産への希望をかなえる取組が求められている。

（転出超過）市民の20代後半から30代の若年層については、都心（新宿区、世田谷区等）や北多摩近隣市（小平市、東久留米市等）への転出超過傾向となっている〔5〕。市民意識調査では、「結婚して西東京市に住みたい」と考えている市民は少なく、結婚を機に都内や23区近隣市へ転出する意向が高い〔6〕。

➤ 後期高齢者の増大とその生活環境

本市の高齢化率は、2060年には39%に達し、このまま推移すれば、介護の可能性が高まる後期高齢者も現在の2.5倍に達する〔10〕。市民意識調査での高齢期の今後の生活における重要度で、健康、防災、安全面のほか、他年代と比べて「地元の商店街」の平均値は高い〔12〕。市内小売業は事業所数、従業者数、年間商品販売額が減少傾向にあるなかで〔13〕、高齢者の買い物環境の利便性向上には課題がある。

➤ 市内産業の状況

本市は、事業所数・従業者数は北多摩5市で最も多く、23区近隣市とも肩を並べる水準にあるなど〔7〕、商業や産業の集積地としての顔もあわせ持つ〔16〕。しかし、農家数や農地面積は年々減少し〔17〕、商店の廃業により空き店舗がみられ、大規模工場の撤退や縮小で事業所数及び従業者数は減少傾向にあるなど〔18〕、まちの魅力の一つである市内産業を取り巻く状況は厳しい。

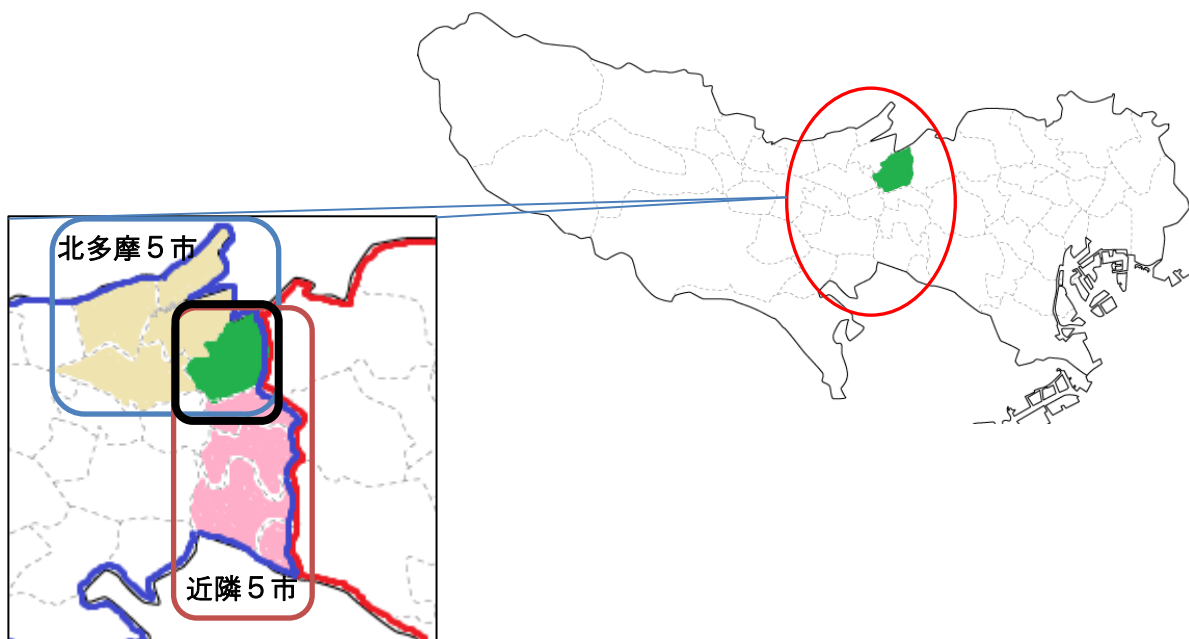
➤ 本市の都市イメージ

本市の認知度は多摩26市中23位と低く〔22〕、想起されるイメージはまちの利便性やみどりにかかる事項が中心で、「歴史・伝統」「文化・芸術・音楽」「祭・イベント」や「活気」「成長力」のあるまちのイメージは乏しい〔21〕。さらに、市内外から支持されている「まちなかの自然」については、その保全などが課題となっている。また、住民のまちへの愛着度が高い武蔵野市、三鷹市などと比較すると〔23〕、「まちなみや景観、雰囲気が良い」「まちに個性がある」「文化・芸術・音楽を鑑賞できる」など多くの項目で差がある〔24〕。

Ⅲ ポテンシャル

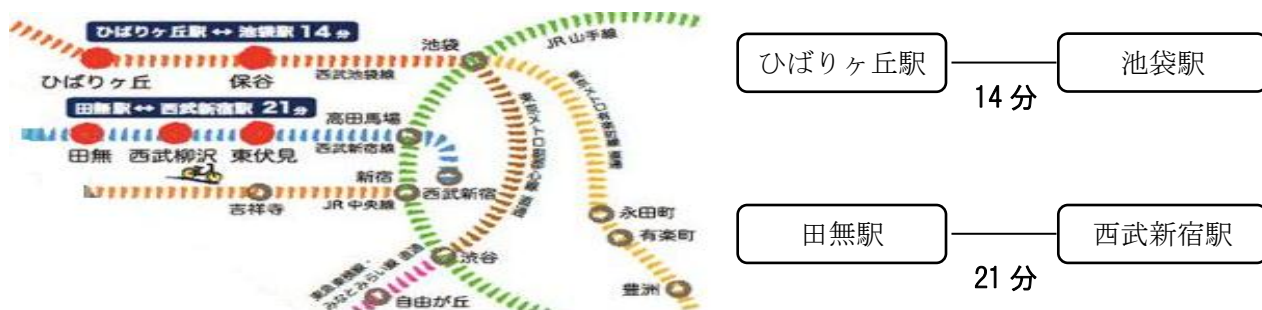
◇ 23区近隣5市と北多摩5市のまちの良さをバランス良く備える都市

多摩地域で区部に隣接している市は5市です。西東京市は都心からの距離、商業や教育・学習環境の面では近隣5市と同じような特性を有しています。一方で、自然や住環境、農業や農地面積といった面では北多摩5市と同じ特性があり、『23区近隣5市と北多摩5市』の両方の良さを兼ね備えた都市といえます。



◇ 都内・都心へのアクセスの良さ

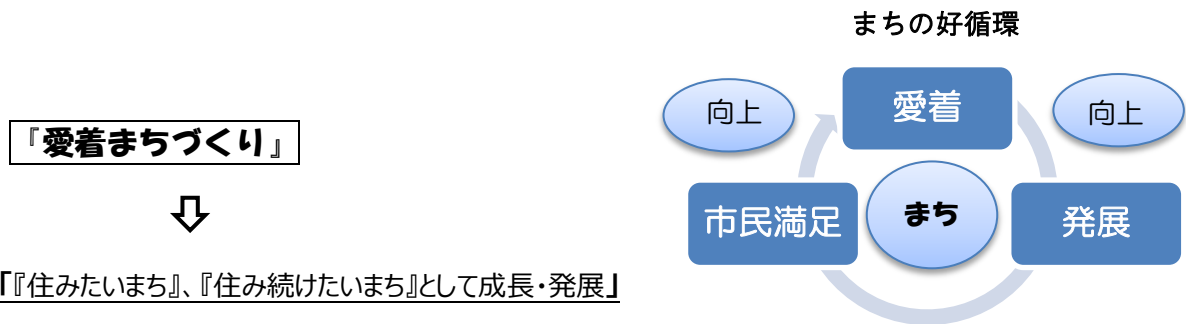
15.75 km²の市内には2路線5駅あり、都心へのアクセスの良さは大きな魅力です。市域の約8割の地域では駅まで15分圏内となっており、多摩地域の中では最も都心に近い都市といえます。



IV 戦略の基軸

現在の西東京市は多世代がバランスよく居住していますが、将来においても『住みたいまち』、『住み続けたいまち』として成長・発展していくためには、市の持つ良さ（＝ポテンシャル）をいかすことと、今住んでいる市民が自分たちのまちに対して満足すること（満足度の向上）が重要です。

そのためには、行政と市民が一体となったまちづくりを進め、まちへの愛着の向上がまちの発展に繋がり、さらに市民の満足度も向上するという好循環を生み出すことで、活気あるまちをつくり「地域の総合力」を高めます。



1. 推進にあたっての方向性

① 多世代の活力をいかすための応援をする

(若い世代のライフコースの切れ目をつなぐ)

市民のライフコースにおいては、若者は結婚を機に転出、女性は出産を機に離職する傾向があり、また、転出入者は地域コミュニティとの関係が途切れる傾向があり、様々な「切れ目」を様々な“工夫”によってつなげ、次の世代が将来を描けるようにします。

(高齢者も安心・健康・いきいきと活躍できる)

若年層、女性、働き盛り世代とともに、高齢者が健康・安心・快適にらせる環境を整えることで、今後増加する知識や経験を有する元気な高齢者を「多世代の活力」としてまちづくりにいかせるようにします。

② まちの産業を活性化させ、魅力を高める

まちの魅力や活力源としての産業集積を維持しつつ、若者や女性、働き盛り世代などの就業意欲や起業意欲、多彩なキャリアやスキルなどをいかせるよう、地域に根ざした産業を育てます。

③ 地理的優位性（フィールドやアクセスの価値）をいかし、まちへの活気を高める

(アクセスのよさを活かす)

居住地選定の理由の第1位はアクセスのよさです。「おでかけ・出歩き・立ち寄りやすい」という提供価値とするとともに、生活関連や行政サービスへのアクセシビリティなどもあわせ「アクセスのよさ」をまちのイメージとしていかしていきます。

(地域資源の活用を進める)

アクセスのよさを強みとしていかしつつ、見のがされているヒト・モノ・コトをつないで、まちを楽しみ、まちの良さを高めていきます。

2. 戦略推進のための共通の視点

①まち全体で情報を発信（市民も発信）

人口構成のバランスがとれた多世代にわたる市民の存在や、住宅都市、産業集積、教育・学習環境等の多面的な都市の姿、歴史・文化等やまちなかの自然や景観、農産物や商品等、多彩な地域資源といったヒト・モノ・コトを誇れるまちの宝が存在しています。それらの宝を伝え、共有し、まちの魅力を高めます。

②発想の転換による持続可能なまちづくり

今後の公共サービスの提供、事業展開においては、将来人口や社会経済情勢の変化を的確に捉えながら、財政面でのバランスを図りつつ、経営の視点に立った行政運営に取り組む必要があります。

加えて、市のポテンシャルをいかせるよう、様々な角度からのデータ分析やこれまでと異なる視点での事業実施など、画一的な方法に留まることなく、発想を転換して取り組みます。

<基本目標体系>

1 次の世代が将来を描ける

1-1 次の世代の結婚・出産・子育ての応援

1-2 女性や子育て世代が輝く環境づくり

2 健康・安心・快適にくらす

2-1 いつまでも健康で元気に暮らせる『健康まちづくり』の推進

2-2 少子高齢化時代に対応した地域づくり

2-3 高齢者の安心・快適をみんなでサポート

2-4 地域で安心して暮らすための行政サービスの提供

3 地域に根ざした産業が育ち、まちに活力

3-1 「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成

3-2 「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興

4 まちを楽しみ、まちの良さを高める

4-1 いいね！と評価できる魅力づくりと情報発信

4-2 ほっ！と安らげるみどりのまちづくり

4-3 ぱっ！とどこにでも行けるまちを満喫する

V 基本目標

基本目標 1 次の世代が将来を描ける

■ 取組方向

若い世代及び年少人口が減少・流出する中で、地域の次世代を担う層の出生率向上や、若者の回帰・定住促進のために、若い世代の結婚・出産・子育てを切れ目なく支援する取組を進める。あわせて、子育て期の女性の就労ニーズに対応した取組を進める。

■ 関連施策・事業

対策内容	
1-1	<p>次の世代の結婚・出産・子育ての応援</p> <p><理由・考え方> 人口減少社会の到来により、若い世代を取り込む都市間競争はさらに激しくなると考えられる。地域の次世代を担う層の出生率向上と、若い世代の回帰・定住を促すために、若い世代にとって結婚や子育てで切れ目のないサポートが得られ、人生の節目で「スタートは西東京」とのイメージを持てるようにする。 地域の次世代を担う層の出生率向上のために、若い世代の出産・子育てに関する支援を充実させる。また、「子育てしやすい」というだけでなく、「子育てを通じて自分・家族・地域が成長できるまち」として、子育てから高齢期の地域参加へと切れ目なくつなげていく視点を持って取組む。</p>
1-2	<p>女性や子育て世代が輝く環境づくり</p> <p><理由・考え方> 女性の出産を機とする離職や、子育て世代の負担を軽減し、仕事と生活の調和を図りながら生産性を向上させていけるようにするために、関係機関や企業等（市外含む）とも連携しつつ、就業や新しい働き方・多様な働き方を支援する取組を行う。 例）自宅の近くで仕事ができるワークスペースの確保なども含め</p>

基本目標 2 健康・安心・快適にくらす

■ 取組方向

超高齢化社会の到来に対応し、だれもが安心して、いつまでも健康で元気に、地域の中で快適に暮らし、コミュニティに参加しながら、多世代が交流できるまちづくりを進める。

■ 関連施策・事業

対策内容	
2-1	<p>いつまでも健康で元気に暮らせる『健康まちづくり』の推進</p> <p><理由・考え方> 健康づくりへの関心の高まりに応えつつ、増大する医療費の抑制、老年人口の増加に伴う老人福祉費・生活保護費の増大の抑制を図るために、より一層、「健康づくり」への取組を充実させる。</p>
2-2	<p>少子高齢化時代に対応した地域づくり</p> <p><理由・考え方> 西東京市では、転出入等による地域コミュニティとの関係の途絶が予想されるほか、少子化に伴う子育てつながりの減少、高齢化に伴う地域活動の停滞などが懸念される。 多世代で活力あるまちづくりを進めるために、高齢者の地域参画を進めるとともに、若者の結婚・出産・子育てや、女性や働き盛り世代のワークライフバランスの実現などと絡めつつ、多世代が切れ目なく地域との接点やかかわりを持ち、地域活動への参加の階段をあげていく包括的な取組を進める。</p>
2-3	<p>高齢者の安心・快適をみんなでサポート</p> <p><理由・考え方> 超高齢社会の中で、後期高齢者が買い物や移動に困ることがなく、だれもが快適に暮らせるようにするため、ハード・ソフト両面での取組を行う。</p>
2-4	<p>地域で安心して暮らすための行政サービスの提供</p> <p><理由・考え方> 後期高齢者が倍増する超高齢化社会し、高齢者が地域で安心して暮らすための行政機能を提供する。また、人口減少や少子化に対応し、子ども、若者、女性、働き盛り世代など、だれもが安心して暮らせる包括的な地域福祉システムの構築を進める。</p>

基本目標 3 地域に根ざした産業が育ち、まちに活力

■ 取組方向

都心等へのアクセスの良さをいかしつつ、希望する働き方をかなえるための就労支援や、地域の特徴をいかした産業の活性化へつなげる取組を進める。

■ 関連施策・事業

対策内容	
3-1	<p>「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成</p> <p><理由・考え方></p> <p>都心へのアクセスのよさや北多摩 5 市の中での産業集積性をいかして「（産業面でも）まちの魅力やポテンシャルがある」と感じさせることでまちのイメージアップにつなげるとともに、働き盛りの世代やスキルを保有するリタイア層が「職住近接の希望をかなえるチャンスがある」という期待から定住や活動が促せるよう、起業・創業支援の充実などに取り組む。</p>
3-2	<p>「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興</p> <p><理由・考え方></p> <p>まちの魅力であるみどりやにぎわいを担う農業や小売業、特徴的な産業などを守り・育てるために、援農ボランティア、学生・市民活動・コミュニティなど市民とも連携しつつ、地域に根ざした産業の活性化を図る。また、シルバー人材センターをはじめ、地域や社会で働きたい中高年やシニアの就労場所の確保・斡旋も積極的に行う。</p>

基本目標４ まちを楽しみ、まちの良さを高める

■ 取組方向

交流・定住を促進するために、評価の高い市内のみどりやアクセスのよさなどの多彩な地域資源を活用したり、歴史の中から魅力を探ることで、「住みたい」「訪れたい」「住み続けたい」気持ちを高める取組を進める。

■ 関連施策・事業

対策内容	
4-1	<p>いいね！と評価できる魅力づくりと情報発信</p> <p><理由・考え方> 交流・定住を促進するために、西東京市が、住宅都市としての魅力や強みのほか、商業や産業の集積都市、教育・学習都市などさまざまな面で魅力をもつ都市として認知されるよう、地域資源を再評価しつつ、多世代をターゲットとして、まちの魅力の発掘・発信に取り組む。</p>
4-2	<p>ほっ！と安らげるみどりのまちづくり</p> <p><理由・考え方> まちの魅力として評価されている「まちなかの自然が豊か」というイメージを守りつつ、魅力として高めるために、公園・景観・農地等のみどりの保全・活用を進めるとともに、近隣市とも連携した地産地消の取組、都市のアメニティを高める取組などと連携させ、「都市のゆとりや潤い、アメニティの高さ」というイメージや価値の提供につながるようにする。</p>
4-3	<p>ぱっ！とどこにでも行けるまちを満喫する</p> <p><理由・考え方> 「アクセスのよさ」を強みとして市内外に訴求し、「行動や活動のしやすいまち」というイメージづくりや価値の提供につながるよう、駅・街道・市内交通をいかした取組を行う。</p>